**令和２年度秋季審判講習会報告書**

館林支部　堀越　春幸

　　横山　大助

　佐々木　光生

　　　　山根　伸允

令和２年11月22日上毛新聞敷島野球場で開催されました群馬県野球連盟秋季審判実技伝達講習会に参加致しましたので、講習内容および、今年度の変更に伴う確認事項を報告するとともに、支部審判員に伝達を行います。

　Go-Sop-Call

　　審判の基本姿勢及び動作の反復練習

　　　止まって確実にプレイを見る為に走り方、足の運びかた、止まり方を意識し

　　　その上ではっきりとコールする事を心掛けて行った。注意点として左足スタート、

　　　左足で止まり、走る時は目線を下げない、横を意識して隊列が乱れない事。

　　　セットにおいても、ハンズ・オン・ニーズ・セットポジションで頭を上げて

　　　目線をプレイにキープする事を想定し、膝を軽く曲げ、腰から背中はまっすぐに

　　　する事を意識する。

　　　アウトのコールは、セットポジションの姿勢から一連の動作で立ち上がりながら

　　　右ヒジを肩の高さまで上げ、右斜め前のドアをノックする様にキレを意識して

コールする。その際に左手は前に持ってくるのではなく、体の横におく。

　　　セーフのコールは、セットポジションの姿勢から一連の動作で立ち上がりながら

　　　両腕を体の前面の肩の高さ止める。その時に腕がクロスさせない様に注意する

　　　(視界を遮らない為)。その後にコールと共に両腕を水平に広げる

ストライクゾーンの確認と球審の姿勢

　　今回は秋季講習と言う事で球審の姿勢とトラッキングの確認。下記を意識して

　　行う事。

　　そのゾーンとベース全体が良く見える位置でスロットポジションの姿勢を取る。

　　スロットポジションは、ホームプレートの内側にラインに自分の体の中心を置き

　　正面から見て、自分の耳が捕手のマスクの自分側が掠る位置を意識する。

　　スロットフットとアンスロットフットの位置をHeel・Toe・Heel・Toeに合わせる。

　　オン・ザ・ラバー/ゲットセット/コール/リラックスを一定のリズムで行える様、

　　意識する。リラックスする時はトレイルフットを先に下げる事で、次の姿勢でも

　　軸がぶれる事なく、同じ位置に入る事が出来る。

　　　タイミングは投手が投球動作を開始したら、ゲットセットの姿勢をつくる。

投球を開始したら、立ち遅れない様に投手の自由な足が地面についた時は姿勢を

整える。

投球判定

　スロットポジションでベース全体が見える位置での球審の構えを意識し、投球を

目で追うトラックングを行い、コール姿勢、タイミングを意識して行った。

打者もバッターボックスに立ちましたので、打者の構え等で投手が見えにくくなるが、

顔の位置を調整したりすることで、投手が見える様になるので、自分なりに、投手が

見えやすい構えを見つける事。また、打者は投球の際にバットを引くので、球審は

その位置をキープしていれば、投球は見える様になる。

ストライクのコールはキレを意思し、ヒジを顔の高さまで上げてからコールとともに

ヒジを基点としてドアを強くノックする様に叩く様に意識を持ち、コールも大きな声でしっかり発声する。

ハーフスイングのリクエストは、左手で塁審に聞く

　　聞き方として、球審は‘Did he go?’

 振った場合は、　　　“Yes, he went！”

 振っていない場合は　“No, he didn’t go！

一塁審判フォースプレイについて

　　一塁ベースのフォースプレイ判定の練習を行う。

　　ファウルラインに対して基本45度の角度を取って、バッターランナーの触塁と

野手の捕球、触塁のタイミングを見極め、しっかりと判定する。

一塁審判は、スタンディング、セットに関わらず、体をボール(投手)に正対する。

投球したら、首、または上半身で投球を追い、打球に対しての準備をする

走者一塁時の二塁のポジショニングについて

一塁ベース、二塁ベースでフォースプレイ判定の練習を行う。

　　しっかり、角度を取って、バッターランナーの触塁と野手の捕球、触塁の

　　タイミングを見極め、しっかりと判定する。

　 また、ダブルプレイ時の二塁審判は、スタンディングポジションで二塁ベースに

正対し、判定を行う。打球が向かってきた場合、ボールをかわす際に、野手の視界を

遮らないため、打球の避け方に注意する。

盗塁時は捕手からの送球に対して、２ステップでターンし、判定に備える。

三塁審判のフォースプレイの判定の位置について

打者がバンドしたら、３塁コーチャースボックスの本塁側の角のあたりに移動すし、

ジャッジする。

三塁への盗塁時もファイルテレトリーで判定。ファールラインに平行に３，４歩

移動し、ベースに正対してジャッジする。

三塁審判は、スタンディング、セットに関わらず、体をボール(投手)に正対する。

投球したら、首、または上半身で投球を追い、打球に対しての準備をする

投球動作に関する説明

　　　　ボーク13種類の説明。協力校が高校の為、野球規則と高校野球ルールの

　　　　違いの説明。

　　　　 2段モーションはルールブックから削除されたが、高校野球では引き続き禁止

座学での報告

　　下記について説明

１　　　クイックリターンピッチについて

　　　　ワインドアップポジションのクイック投法については、公認野球規則　定義64に

　　　　記載してある通り、打者に対して虚をつく行為の為、反則投球になる。

 規則書5.07(a)（２）、6.02(a)(5)、競技者必携 質疑応答6.00、高校野球の

　　　　手引き‘投手に関する規則’に記載がある

　　　　クイックピッチは危険の為、厳しく指導する。

2　 投手の12秒ルール、20秒ルールの適用

　　　　投手は走者がいない時、捕手または野手からボールを受けたら12秒以内に

　　　　投球しなくてはいけない。これに違反した場合は、即ボールが宣告される。

　　　　投手は走者がいる場合は、捕手、野手からボールを受けたら、20秒以内に

　　　　投球しなくてはいけない。これに違反したら、2回目までは警告、3回目は

　　　　ボールが宣告される。館林支部はストップウォッチを各グランドに各2個用意

しましたので、来シーズンは審判員で活用方法も勉強する。

３　　 攻守交代時の追い出しについて

　　　 守備側はバッテリーを先に出させる。

　　　 攻撃側は打者をネクストバッターサークルで待機させ、ラストで捕手が投手

または野手に投げたら、バッターボックスに移動させる

　4　　 県大会で改造バットの認識がないチームが多い。支部予選においても準々決勝

　　　　から用具点検を行うこと。

　5　　 バッターボックスルールの認識が薄くなっているので、引く続き審判員、

各チームに指導していく

　6 プレイを見る際は、止まって、角度をとってみる。

　　　　外野飛球の判定は一歩近づき、早めに止まり、プレイを待ち受ける

　　　　外野プライはライン際、低いライナーはセットで見る。背走打球は視野を広げて

　　　　スタンディングで見る

総括

実技講習会においては、Go-Stop-Call、球審の構え、フォースプレイの

位置取り、フォーメーションにおいても、ポーズ、リード、リアクションを意識し

まず、しっかり打球、廻りを見る、その上で野手や他クルーの動きを見て動くなど、

基本のおさらいと、状況判断の確認が出来たと思います。

講習会後の座学において、教示された12秒ルール、20秒ルールの適用、

選手の追い出し、クイックリターンピッチ等については、支部審判員に伝達し

来年度から適用できるようにしていきたいと思います。

以上